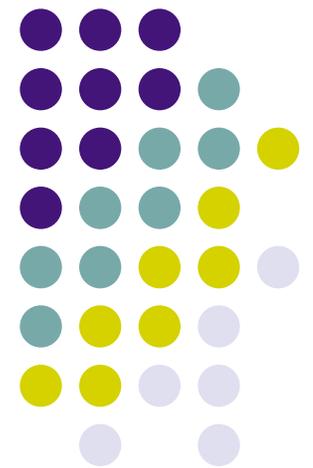
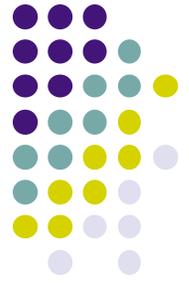


# 方言調査 3

サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所  
南 雅彦



# 方言調査：地域的なバリエーション

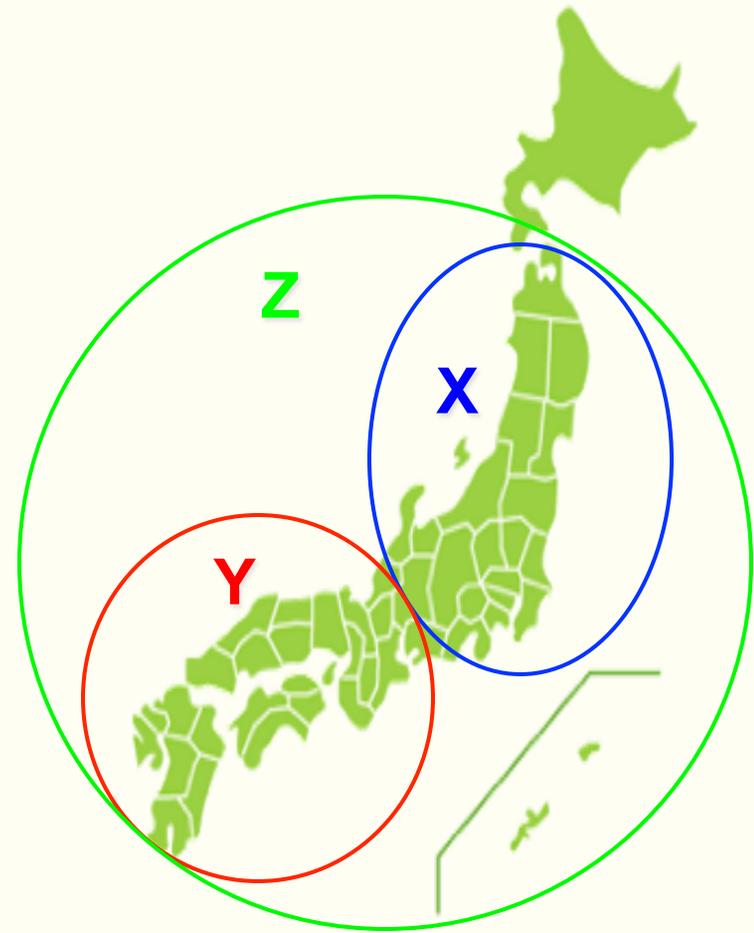


- 学生に「マクド禁止」 関西学院大、近くの店の苦情受け  
(朝日新聞新聞 2012年1月20日)
  - 関西学院大学(兵庫県西宮市上ヶ原一番町)の近くのマクドナルドの店舗に長く居座って迷惑がかかっているとして、大学が学生に、店へ行かないよう求める通知を出していたことが19日、わかった。
- マクドが関学生を出入り禁止？ “大人”の過剰対応に疑問も(産経新聞 2012年1月28日)
  - 関西の有名私大「関関同立」の一角を占める関西学院大学が1月中旬、大手ハンバーガーチェーン「マクドナルド」店舗から学生のマナー違反を指摘され、「関学生の出入りが禁止されたので従うように」と学生に通知する騒動に発展した。

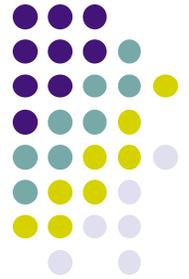


# 方言調査：地域的なバリエーション

- **東西対立のパターン**
  - **パターン1**:もともとX、後から西日本にYが広まり、対立が生じた。
  - **パターン2**:もともとY、後から東日本にXが広まり、対立が生じた。
  - **パターン3**:何か別の語Zが全国を支配していたところ、西でY、東でXが生まれ、ほぼ同時に勢力の拡大を図った結果、両者がぶつかった。



# 方言調査：地域的なバリエーション



**方言区画論** 東条操(1927)

体系の異なる方言同士の間  
に方言境界線を引き、全国の方言を  
区分する。一本の分断線

**isogloss** = a line drawn on a map to  
mark the boundary of an area in  
which a particular linguistic feature  
is used.

**等語線 (isogloss)** 言語地図上で  
1つの方言(地方語)と別の方言  
を区切る線。包囲線。

本土方言は東西両方言に大別さ  
れるが、境界線の北端には『奥  
の細道』でも知られる親不知・子  
不知の難所、南にはそびえる日  
本アルプスと難所があり、人々の  
往来の障害となっていた。



# 方言調査: 地域的なバリエーション

	東日本	西日本
動詞	片付ける	直す
名詞(煙り)	けむ・けぶ	けむり・けぶり
名詞(明後日の翌日)	やのあさって	しあさって
名詞(蝸牛)	カタツムリ	デンデンムシ
名詞(雨の季節)	入梅	梅雨
形容詞	しょっぱい しょっからい	からい しおからい
形容詞	ばか(バカ)	あほ(アホ)

**パターン1:** もともとX、後から西日本にYが広まり、対立が生じた。

**パターン2:** もともとY、後から東日本にXが広まり、対立が生じた。

**パターン3:** 何か別の語Z(例: 長雨)が全国を支配していたところ、西でY(例: 梅雨), 東でX(例: 入梅)が生まれ、ほぼ同時に勢力の拡大を図った結果、両者がぶつかった。

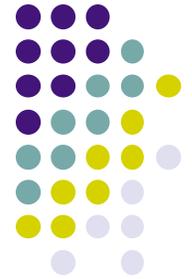
**方言区画論** 東条操(1927)

体系の異なる方言同士の間に関方言境界線を引き、全国の方言を区分する。一本の分断線

**isogloss** = a line drawn on a map to mark the boundary of an area in which a particular linguistic feature is used.

**等語線(isogloss)** 言語地図上で1つの方言(地方語)と別の方言を区切る線。包囲線。

本土方言は東西両方言に大別されるが、境界線の北端には『奥の細道』でも知られる親不知・子不知の難所、南にはそびえる日本アルプスと難所があり、人々の往来の障害となっていた。



# 方言調査: 地域的なバリエーション

	東日本	西日本
動詞	片付ける	直す
名詞 (パターン2 →)	けむ・けぶ	けむり・けぶり
名詞 (明後日の翌日)	やのあさって	しあさって
名詞 (蝸牛)	カタツムリ	デンデンムシ
名詞 (パターン3 →)	入梅	梅雨
形容詞 (パターン2 →)	しょっぱい しょっからい	からい しおからい
形容詞 (パターン1 →)	ばか (バカ)	あほ (アホ)

**パターン1:** もともとX、後から西日本にYが広まり、対立が生じた。

**パターン2:** もともとY、後から東日本にXが広まり、対立が生じた。

**パターン3:** 何か別の語Z (例: 長雨) が全国を支配していたところ、西でY (例: 梅雨), 東でX (例: 入梅) が生まれ、ほぼ同時に勢力の拡大を図った結果、両者がぶつかった。

## 方言区画論 東条操 (1927)

体系の異なる方言同士の間には方言境界線を引き、全国の方言を区分する。一本の分断線

**isogloss** = a line drawn on a map to mark the boundary of an area in which a particular linguistic feature is used.

**等語線 (isogloss)** 言語地図上で1つの方言 (地方語) と別の方言を区切る線。包囲線。

本土方言は東西両方言に大別されるが、境界線の北端には『奥の細道』でも知られる親不知・子不知の難所、南にはそびえる日本アルプスと難所があり、人々の往来の障害となっていた。



# 方言調査: 地域的なバリエーション

- 東西対立型 (AB分布)
  - 「**カライ**」
    - 奈良時代の「**カラシ**」から
    - 塩味も辛みも「**カラシ**」
    - 塩による辛さに限定する「**シオカライ**」という語形を必要とした。
    - 上方から周辺に伝播した。
  - 「**シヨツパイ**」
    - 江戸時代の後半に東でできた言葉。





## リレーション

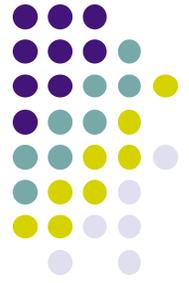


私自身大阪府民なんで、塩の効き過ぎた焼鮭を関西人だけ「辛い」と表現をすることにビックリ(;°д°)そこで疑問なんですが、関西人にとっての「しょっぱい」と言える食べ物や調味料が思いつきませぬ。思いついたのは涙ぐらいて関西人の皆さんはしょっぱいで何が浮かびますか？

- 上方から周辺に伝播
  - 「**ショツパイ**」
  - 江戸時代の後半に東
- できた言葉。

しょっぱい食べ物と言えば、梅干ですね。私は東北人ですが、しょっぱい(方言)は＝塩辛い(標準語)だと思っていました。だから、東北に住んで居る時は普通に「しょっぱい」と言ってきましたが東京に出てきてからは「しょっぱい」という言い方がはずかしいので「塩辛い」と言っています。全然違ってたんですね。

# 方言調査：地域的なバリエーション



- 東西対立型(AB分布)
  - 和歌山県南部に「アル」、大阪周辺に「イル」がある以外は「東日本イル vs 西日本オル」という対立が見られる。



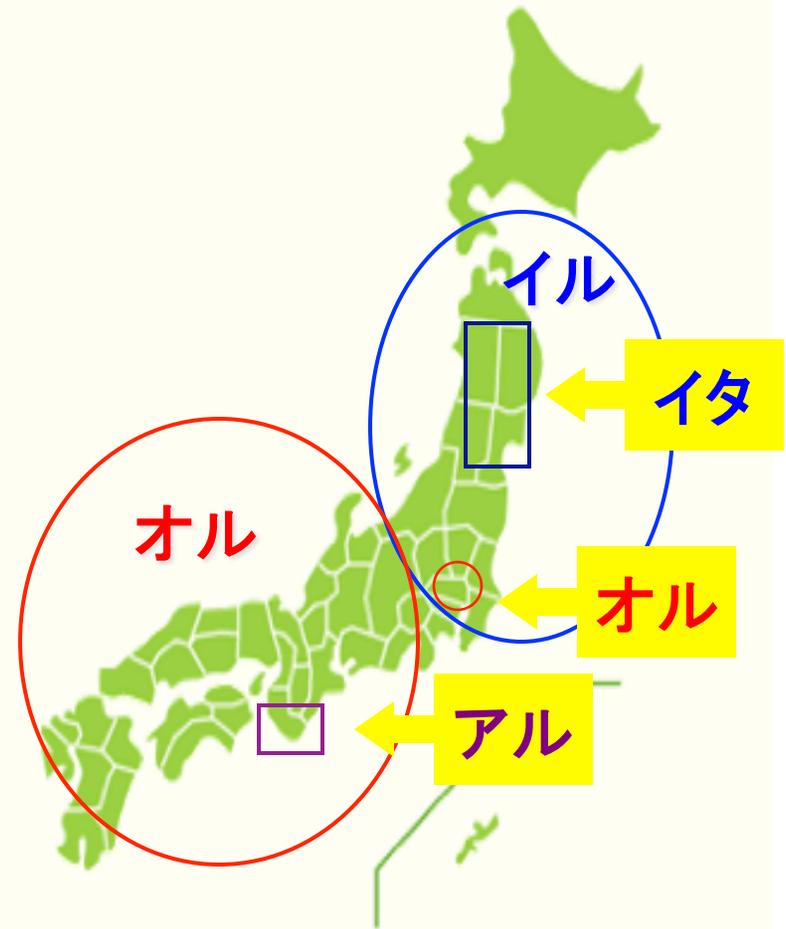
# 方言調査: 地域的なバリエーション

- 東西対立型 (AB分布)
  - 和歌山県南部に「アル」、  
「東日本イル vs 西日本」

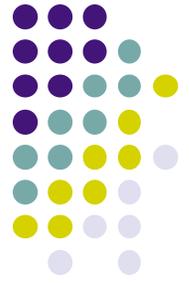
## 相補分布

2つまたは3つ以上の異なる要素の間に、異なる環境で背反的に出現する関係があること。

(例) 存在表現で、主語が人間・動物などの場合は「イル」、それ以外の場合は「アル」。

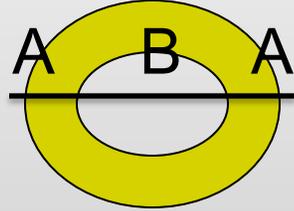


# 方言調査：地域的なバリエーション



- 東西対立型(AB分布)
  - 和歌山県南部に「アル」、大阪周辺に「イル」がある以外は「東日本イル vs 西日本オル」という対立が見られる。
- 周圏分布型(ABA分布)
  - 語の歴史と地理分布を考える上で、最も典型的な分布パターン(例：蝸牛・女[オンナ・オナゴ])

Aの分布は地理的に連続しており、その後生まれたBがAの分布を絶ち切った。

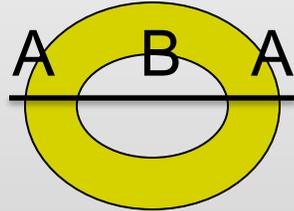


- 和歌山県産「アル」、  
「東日本イ」、西日本フ
- 周年分布型(AB/A分布)
- 語の歴史と地理分布を考  
ターン(例: 蝸牛・女[オン

関東中部の「オンナ」  
を挟んで、その両側  
に「オナゴ」の大領域

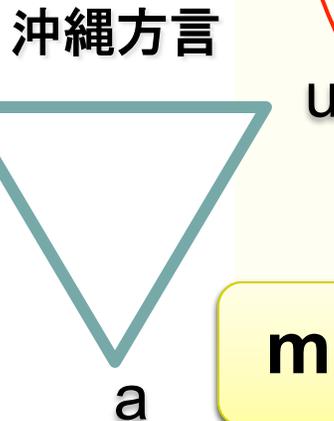
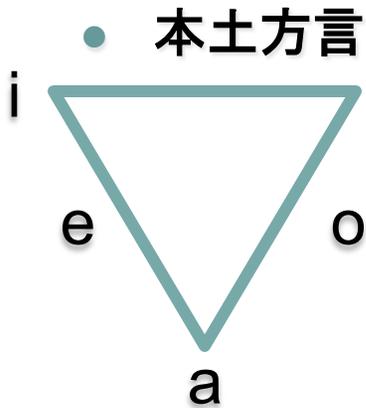


Aの分布は地理的に連続しており、その後生まれたBがAの分布を絶ち切った。



関東中部の「オンナ」を挟んで、その両側に「オナゴ」の大領域

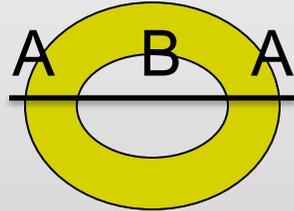
- 和歌山県産「アル」、  
「東日本イ」、西日本ウ
- 周圏分布型 (AB/A 分布)
- 語の歴史と地理分布を考  
ターン (例: 蝸牛・女 [オン



midumu ミドウム

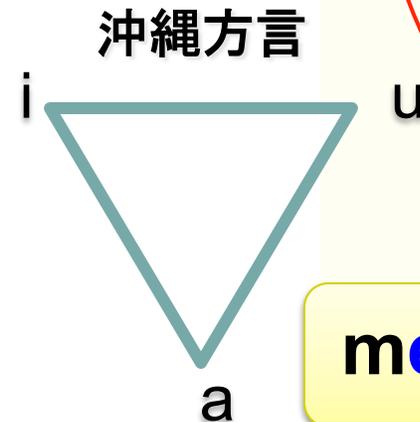
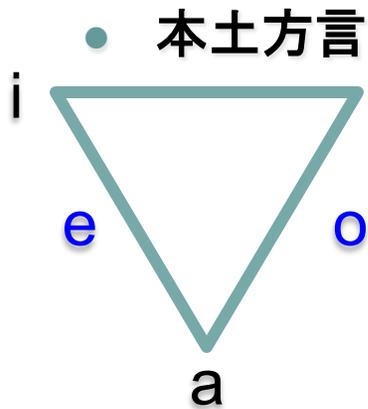
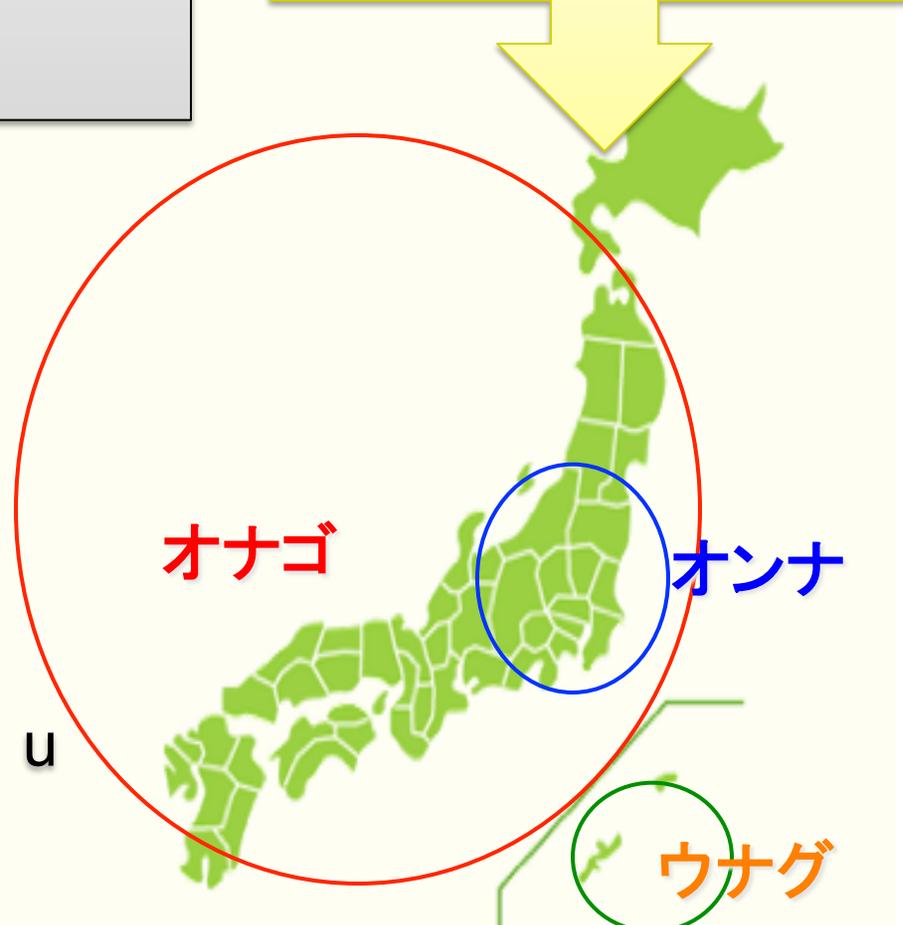
unagu ウナグ

Aの分布は地理的に連続しており、その後生まれたBがAの分布を絶ち切った。



関東中部の「オンナ」を挟んで、その両側に「オナゴ」の大領域

- 和歌山県産「アル」、  
「東日本イ」、西日本ウ
- 周圏分布型(ABA分布)
- 語の歴史と地理分布を考  
ターン(例: 蝸牛・女[オン



medomo

ミドウム

onago

- 奈良時代には女性一般を表す語としては「メ」が普通だった。
- 「メ」は「雌」や「妻」の意味でも用いられた。
- 「ヲミナ」も「メ」とともに使われたが、これは「若い女」「美しい女」の意味が強く、「メ」と使い分けられた。
- 平安時代に入り、「ヲミナ」が「ヲンナ」の形に変化するとともに、この語は女性一般の意味が強まり、一方、「メ」は次第に意味が沈下し、女性を卑しめ、見下げて言うときの表現となった。
- 「オナゴ」が一見、古そうだが、室町時代に出現した「ヲンナゴ」が転じた。
- 「オナゴ」の出現によって、「オンナ」の語形が消え去った訳ではなく、その意味が「恋人」「情婦」の位置にずれて潜在し、その後、何らかの事情で「女」の普通称として復活した。

メ

ヲンナ

オナゴ

メ

オンナ